

## 「いちご」販売情報

## 1. 東京都中央卸売市場取扱実績

## (1) いちご類

月	旬	入荷量 (t)	価格 (円/kg)	前年対比 (%)		主産地構成比 (%)
				数量	単価	
10	上旬	6	3555	157.2	112.7	北海道 (79.8) 長野 (9.3) 青森 (5.6) 宮城 (2.5)
	中旬	5	4006	102.8	108.2	北海道 (66.0) 栃木 (86.0) 長野 (6.2) 青森 (4.4)
	下旬	15	3784	124.6	84.8	栃木 (62.9) 北海道 (21.6) 茨城 (6.3) 静岡 (3.3)
10月実績		26	3774	125.5	93.0	北海道 (42.8) 栃木 (40.5) 長野 (4.9) 茨城 (4.3)
11	上旬	70	2691	111.2	87.9	栃木 (85.0) 茨城 (7.9) 静岡 (4.9) 北海道 (1.9)
	中旬	198	2428	175.1	100.8	栃木 (80.0) 茨城 (11.7) 静岡 (4.0) 福岡 (3.1)
	下旬	413	2315	147.5	93.4	栃木 (72.6) 茨城 (9.9) 福岡 (9.6) 静岡 (4.5)
11月実績		681	2393	148.2	139.3	栃木 (76.0) 茨城 (10.1) 福岡 (6.8) 静岡 (4.4)
12	上旬	582	2355	109.8	96.1	栃木 (65.5) 福岡 (11.4) 茨城 (9.8) 静岡 (5.4)
	中旬	738	2603	68.2	107.5	栃木 (62.4) 茨城 (10.3) 福岡 (9.8) 静岡 (6.1)
	下旬	720	2798	71.5	114.5	栃木 (56.1) 福岡 (11.4) 静岡 (9.6) 福岡 (9.6)
12月実績		2041	2601	77.9	106.8	栃木 (61.0) 茨城 (10.5) 福岡 (10.1) 静岡 (7.1)
1	上旬	1045	2154	82.3	120.1	栃木 (51.1) 茨城 (12.9) 福岡 (11.5) 静岡 (9.1)
	中旬	1051	1944	77.3	118.2	栃木 (58.5) 茨城 (11.3) 福岡 (8.7) 静岡 (7.6)
	下旬					栃木 〇 茨城 〇 福岡 〇 静岡 〇
1月実績						栃木 〇 福岡 〇 茨城 〇 静岡 〇

## 2. 販売状況

ア. 今年産については昨年産同様夏場の高温の影響を受けて、全国的に定植や花芽分化が遅れての出荷開始となった。10月の出荷量は、高温の影響を受けたものの栃木県産とちあいかに品種以降したことで大玉傾向となり前年よりも多い入荷量で推移した。宮城県産については10月20日初出荷となり昨年度より10日遅い出荷となったが、平年並みのタイミングでスタートした。いちご以外の果実も暑さの影響を受けて数量が少ないため、果実全般が数量減の単価高で推移した。末端売価が高い影響から、末端の荷動きは非常に鈍く、各販売先は売価を下げるため逆ザヤでの販売で展開していった。業務階級に関しては、円安の影響から輸入いちごの売価が高い影響もあり昨年よりも高値での販売になった。栃木県産などの出荷は下旬には100甲ほどの出荷となり昨年度よりも2割ほど多い出荷となった。相場については、A品1000円/P前後での販売で推移した。

イ. 11月に入り、好天が続いていたことから県内出荷は200～300甲まで増加していき、主力の栃木県産の出荷量も1000甲を超えてくるような数量となり潤沢な入荷量が続いた。大玉傾向で推移していたためA品中心に相場を下げた550円/p前後となった。そのため、いちごの棚が徐々に広がり週末には特売を組む量販店がでてきた。中旬以降は、昨年並みのタイミ

ングで京浜市場向けに福岡県産あまおうや静岡県産紅ほっぺなど入荷が始まり、全国的に出荷量が増えていった。

ウ. 12月は、11月下旬に引き続き好天の影響から全国的に順調な出荷となり、上旬は夏場の高温の影響を受けた前年を上回る出荷となった。栃木県産とちあいかが2Lサイズ中心の出荷となりパック数が増えたことも要因となった。中旬になると徐々に出荷量は増えていったものの、九州産地分は関西市場の相場が高騰したことでと輸送問題の影響から荷物が集まらず、京浜市場の入荷量は昨年よりも少なかった。クリスマス業務用向けについては、2Lサイズ中心の売り込みをかけていたものの中旬以降小玉サイズの出荷割合が増え2L、Lの大玉階級の相場が強保合となり、昨年まで使用量が多かったMサイズは保合で推移した。クリスマスケーキ向けの注文に対して大きな欠品なく納めることができたが、寒さが続いた影響で全国的にいちごの出荷量が少なかったため、年末年始に向けての店頭販売分のレギュラーパックと業務用いちごは絶対量不足の状況が続いた。

エ. 1月に入り、晴天が続いたものの平年に比べ寒かったことから出荷量は少ないまま推移した。年末年始の需要も終わり中旬に向けて相場を下げながらの販売となり、仙台市場で400円/p前後となった。中旬頃から栃木県産を中心に第一次腋果房の増量が見込まれたが、12月下旬から寒さが続いていた影響もあり想定よりも少なく、相場は変わらず推移した。しかし、25日頃になると青果物全般の末端売価が高いことと電気代やガソリン代が高くなっている影響で消費が鈍り、荷動きが停滞し始めた。